

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（7月号）

1. 新型コロナウイルス対策「JAグループ鳥取 牛乳・乳製品消費拡大運動」の取り組み状況

新型コロナウイルス感染拡大によって需要減の影響を受けた鳥取県産畜産物の消費拡大運動として、6月の「牛乳推進月間」に合わせ、3JAと大山乳業・白バラ商事が連携し、牛乳・乳製品の職員・関係者への斡旋販売に取り組んだ。「牛乳セット」と「スイーツセット（ヨーグルトセット）」を企画し、合計金額 1,358,680 円の実績となった。商品企画内容、組合員への斡旋など各JAそれぞれの特色ある取り組みが展開され、今後も継続してほしい等、購入者の声も好評なものであった。

なお、JA鳥取西部は同様の取り組みを4月にも実施している。

【牛乳・乳製品消費拡大運動実績】

JA名	担当部署	6月取扱実績	備考
JA鳥取いなば	経済部	576,180円	
JA鳥取中央	営農企画部	314,000円	
JA鳥取西部	営農部	349,700円	4月実績 189,700円
連合会・中央会・関連団体	各団体	118,800円	
合計		1,358,680円	

2. 令和2年度 農業者人間ドック受診助成事業の取り組み状況

「農業者人間ドック助成事業」については、3JAと連合会が一体となって平成30年度より実施しており、県内農業者の人間ドック受診を推進することで、農業者の健康増進と意識付けを図り、将来にわたって安定的な農業生産活動に資することを目的としている。

本年度は新型コロナウイルスの影響で人間ドック受診者の減少が懸念されたが、本事業においては大きな影響は見られず、リピーターも増加して前年を大きく上回る進捗状況となっている。

申請締め切り(10月末)に向け、各JAと連携し、機関紙への掲載を実施するとともに、全職員が対話運動および各事業推進のアプローチツールとして農家組合員への周知を図る。

【令和2年6月末 農業者人間ドック助成事業進捗状況表】（前年同時点の比較）

	JA名	鳥取いなば	鳥取中央	鳥取西部	合計
申請件数 (件)	本年度	15	12	10	37
	前年度	15	2	0	17
申請金額 (円)	本年度	177,500	158,500	157,380	493,380
	前年度	176,000	33,000	0	209,000

3. 中央物流センターが全地域で稼働開始！（JA全農とっとり）

中央物流センターは、令和元年10月よりJA鳥取中央・中央営農センター管内と湯梨浜営農センター管内で先行して稼働していたが、令和2年7月より琴浦営農センター管内および北栄営農センター管内を加え、全地域稼働となった。

同センターでは物流の合理化による事業見直しとともに生産資材価格の抑制を目的として、肥料倉庫の管理・運営と、農薬の予約戸配送のためのピッキング作業、組合員宅への戸配送を行っている。

今後はさらなる生産資材の安定的かつ継続的な供給体制の確立と組合員の利便性向上を目指して、県域物流の拠点づくりにつながるよう取り組んでいく。



ピッキング作業準備の様相

4. 農機センター職員融資研修会への講師派遣（JA鳥取信連）

令和2年7月2日（木）、3日（金）にJA鳥取いなばにて開催された「農機担当者 融資（ローン）・JA共済商品研修会」へ本会農業金融センター職員を講師として派遣した。

当JA融資管理課と事前に打合せを行い、農業機械等の購入希望農業者と最初に接点を持つことが多い農機センターの職員である受講生42名に対し、各農業資金の特徴、資金コーディネート、Q&A、融資事務の流れなどを説明した。

農業資金の説明では、農業経営のバックアップとしてJAバンクが利子補給・保証料助成を行っている農業近代化資金について重点的に理解を深めてもらい、農業者のニーズに応えた資金調達時のアドバイスを行っていただけるように研修した。

5. JA共済連鳥取の取り組み

① 新型コロナウイルス感染症予防対策の取り組み

鳥取県内においては新型コロナウイルスの感染者が少数にとどまっているが、今後、感染予防資材の不足が予想される県内の高齢・介護・障がい・養護・母子等の福祉対象者ならびに関連施設等へ感染予防対策の支援として、3JAとJA共済連鳥取の4団体で「マスク」10,000枚と「衛生除菌水（200ボックス）」100個を社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会（以下、県社協）へ贈呈した。

県社協を通じ、県内各市町村の介護施設や保育園など77箇所の社会福祉施設へ配布し、感染予防対策に活用される。

引き続きJA共済では、地域の皆様の安心・



贈呈式の様子（令和2年6月10日）
左から藤井会長（県社協）・谷本会長・森山本部長

安全な生活環境づくりに貢献するため様々な地域貢献活動に取り組んでいく。



JA共済の
地域貢献活動

©2017 JA-KYOSAI

② 交通事故未然防止の取組み

交通事故未然防止の一助となるべく、鳥取県警察に対し、平成29年度は認知症対策機材、平成30年度は反射リストバンド、令和元年度は反射エコバッグ寄贈を行っており、令和2年度は「カラビナライト」7,000個を寄贈した。

鳥取県警察保田交通部長より、「県内では、歩行者に関する交通事故のうち夜間の発生は約4割を占めている。県警察では、歩行者に向けて夜間等における交通の危険や反射材の着用効果を理解していただくための安全教育を実施する中、反射材用品等の着用推進にも努めているところ。寄贈いただいたカラビナライトは、交通事故防止に向けた様々な取組みの中で有効に活用させていただく。」と謝辞を述べられた。

JA共済は、引き続き警察との協力を密にして交通事故未然防止に取り組むたいと考えている。

◆令和2年度 寄贈された
交通安全資材 「カラビナライト」◆



©2017 JA-KYOSAI

歩行者が夜間外出時に鞆やベルトに装着し、点灯させて歩行中の存在をアピールする。